

2020年3月期 第2四半期決算 説明会

2019年11月5日



東証1部 7537

© 2019 MARUBUN CORPORATION

本日は、「上期決算の概要」「中期経営計画の進捗」「通期の業績見通し」の3つの項目について説明します。

2020年3月期第2四半期 連結決算の概要

2020年3月期第2四半期 業績サマリ

(百万円)	19/3月期 上期		20/3月期 上期			前年同期比		期初予想比 増減額
	実績	構成比	期初予想	実績	構成比	増減額	増減率	
売上高	166,434	100.0%	140,000	138,703	100.0%	△ 27,731	-16.7%	△ 1,297
デバイス事業	145,394	87.4%	117,000	117,020	84.4%	△ 28,374	-19.5%	20
システム事業	21,040	12.6%	23,000	21,682	15.6%	642	3.1%	△ 1,318
売上総利益	11,382	6.8%	9,450	7,985	5.8%	△ 3,397	-29.8%	△ 1,465
販管費	8,807	5.3%	8,800	8,057	5.8%	△ 750	-8.5%	△ 743
営業利益	2,575	1.5%	650	△ 71	-	△ 2,646	-	△ 721
営業外収益	296	0.2%	250	1,146	0.8%	850	287.2%	896
営業外費用	2,254	1.4%	650	751	0.5%	△ 1,503	-66.7%	101
経常利益	617	0.4%	250	323	0.2%	△ 294	-47.6%	73
特別利益	23	0.0%	-	4	0.0%	△ 19	-82.6%	4
特別損失	17	0.0%	-	237	0.2%	220	1294.1%	237
親会社株主に帰属 する四半期純利益	133	0.1%	△ 185	△ 110	-	△ 243	-	75

Point

売上高	サムスン電子事業譲渡による減少、通信機器・産業機器向け半導体の需要減
売上総利益	売上高の減少および期中円高進行で円ベースの売上総利益が減少
営業利益	販管費を節減したものの、売上総利益の減少を補えず減益
経常利益	外貨建て債務の決済や時価評価に伴う為替差益9億円計上したが減益

第2四半期の決算について説明します。

まず、連結売上高ですが、1,387億円となりました。昨年度上期の実績1,664億円と比べますと277億円、16.7%減となっております。

セグメント別では、デバイス事業で前年同期比283億円の減収、システム事業は6億円の増収となっておりますが、期初予想との対比ではデバイス事業はほぼ見込み通りで、システム事業は230億円の見込みに対して13億円の減収となっております。

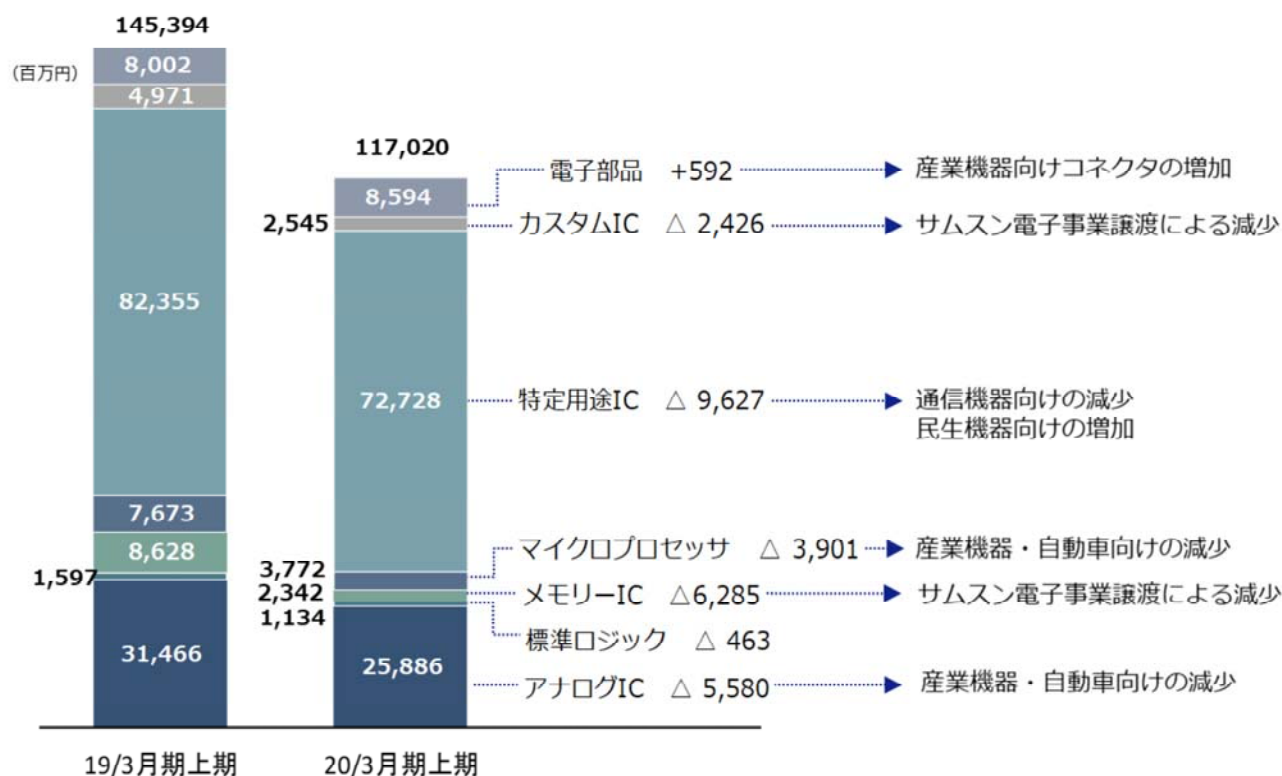
利益面では、今年度に入ってから円高進行が営業利益、経常利益に影響しました。

売上総利益は、売上高の減少要因に加え、期中の円高進行で、ドル建て取引の仕入/売上計上時の為替レート差による減少があったため、営業損益は前年同期比26億円減の7千万円の損失となりました。

営業外損益では、今年度期初からの円高進行による外貨建て債務の決済や時価評価に伴う為替差益を計上したものの、経常利益は前年同期比3億円減の3億2千万円となりました。

なお期初予想との対比では営業利益は7億円のマイナスとなったものの、経常利益はほぼ期初の見込み通りとなっております。

2020年3月期第2四半期 『デバイス事業』 品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

© 2019 MARUBUN CORPORATION

3

売上高について当社の2つの事業セグメント、デバイス事業、システム事業の順にご説明します。

デバイス事業の売上は、前年同期の1,453億円から1,170億円へと283億円、19.5%減少しました。減少の要因は主に、2018年10月1日付でサムスン電子製品の販売事業を譲渡したことで、中国を中心とする通信機器や産業機器市場の減速によるものです。

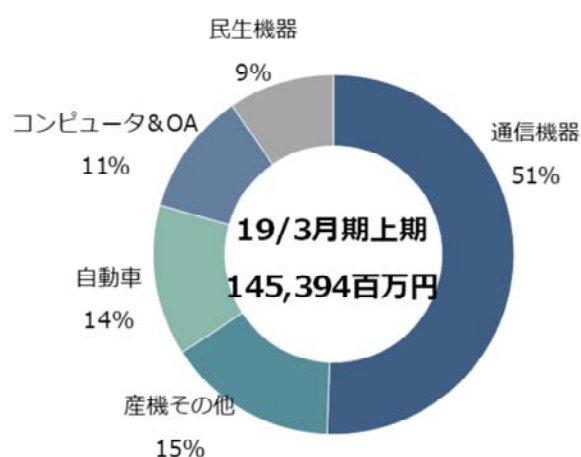
サムスン電子製品の事業譲渡で大きく影響が出たのはメモリーICとカスタムICです。

通信機器の需要の減少は特定用途ICで、産業機器向けの減少ではアナログICやマイクロプロセッサで影響が出ました。アナログICやマイクロプロセッサは自動車向けも低調でした。

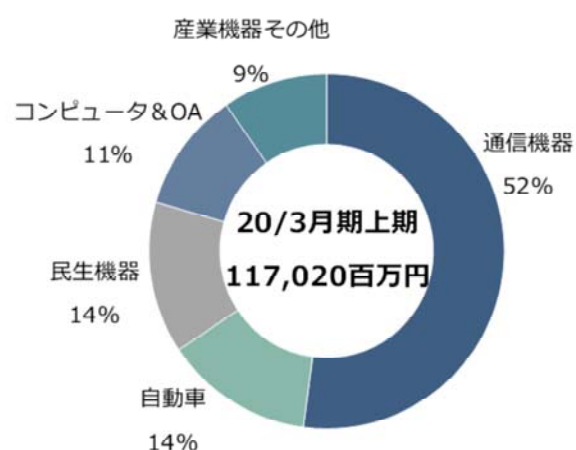
一方、電子部品では、主に産業機器向けのコネクタ製品が増加しました。

2020年3月期第2四半期 『デバイス事業』 用途別動向

用 途	動 向
通信機器	通信端末向けが減少
自動車	インフォテインメント向けが減少
民生機器	新規商権の獲得が寄与
コンピュータ&OA	PC周辺向けが増加、OA機器向けが減少
産業機器その他	工作機械などFA機器向けが減少



MARUBUN CORPORATION



© 2019 MARUBUN CORPORATION

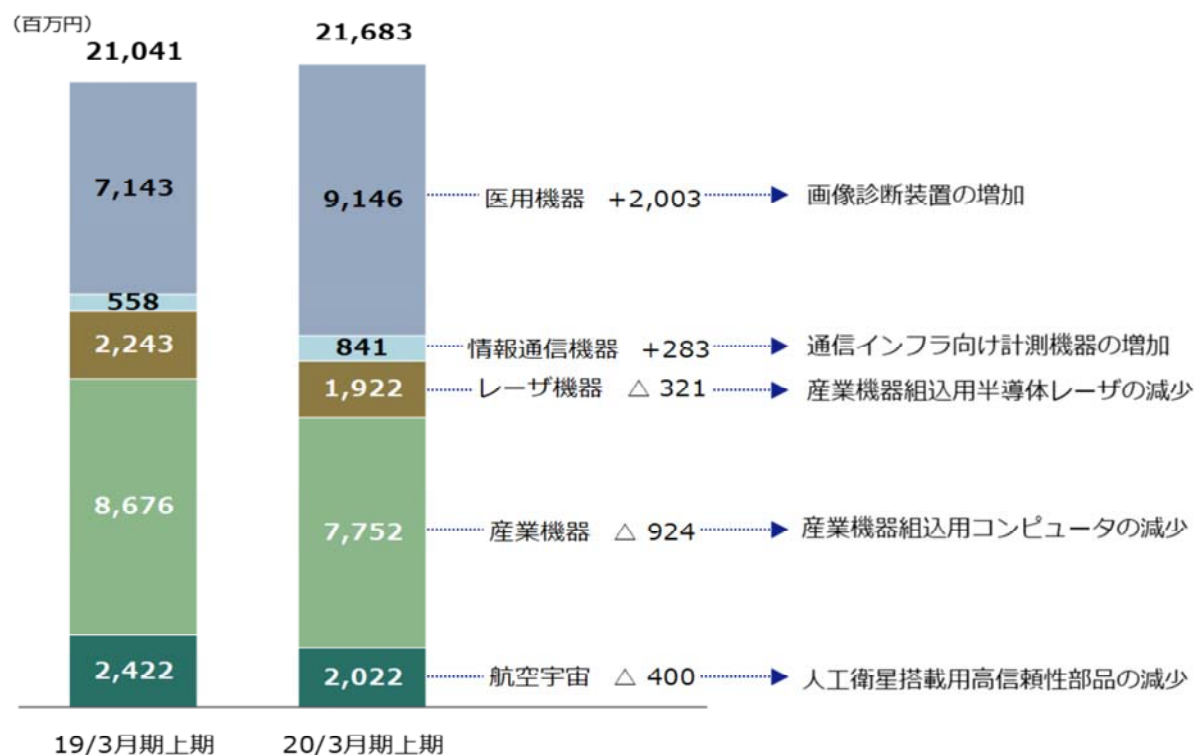
4

デバイス事業を用途別で説明します。

売上ベースでは、民生機器向けが増加しました。これは新規商権の獲得が寄与したためです。

シェアの変化では、民生機器が増加し、産業機器が減少しました。通信機器や自動車、OA機器は前年並みの比率となりました。

2020年3月期第2四半期 『システム事業』 品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

© 2019 MARUBUN CORPORATION

5

システム事業の売上は、前年同期の210億円から216億円に6億円、3.1%増加しました。

増加したのは、情報通信機器と医用機器です。

情報通信機器は、5G通信インフラ向けの測定器やシミュレータが増加しました。

医用機器は、消費増税前の需要増によりCTなどの大型画像診断装置が大幅に増加しました。

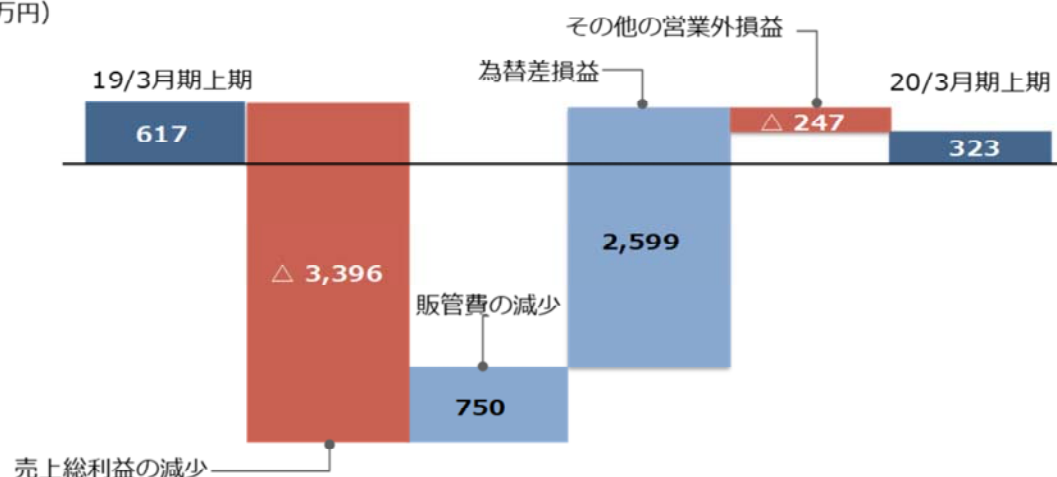
一方、航空宇宙機器は、今年度は宇宙関連プロジェクトの端境期にあるため、人工衛星用搭載用部品が減少しました。

産業機器は中国の景気減速の影響を受けて産業機器組込用コンピュータの需要が減少したほか、電子部品検査装置も減少しました。

レーザ機器の減少は、産業機器組込用半導体レーザの需要減によるものです。

2020年3月期第2四半期 経常利益の増減要因

(百万円)



売上総利益	売上高の減少、今期円高進行による売上総利益の減少 売上総利益率 前期：6.8% → 今期：5.8%
販管費	人件費、販売経費、賃借料等の減少 前期：8,807百万円 → 今期：8,057百万円
営業外損益	為替差損益 前期：為替差損1,612百万円 → 今期：為替差益987百万円

経常利益の増減要因について説明します。

売上総利益は、売上の減少に加え、期中の円高進行によるドル建て取引の仕入/売上計上時の為替レート差によって、33億円減少しました。

販管費は、連結子会社の統合に伴う事務所経費等の減少や販売経費の節減により、7億円減少しました。

営業外損益では、前年同期の為替差損16億円が為替差益9億円に転じ、その他の営業損益も含め23億円のプラスとなりました。

この結果、経常利益は3億2千万円となりました

2020年3月期第2四半期 貸借対照表の概要

(百万円)	19/3月期末 実績	20/3月期上期末 実績	前期末比 増減額	主な増減理由	
資産合計	128,163	123,182	△ 4,981	現金及び預金	8,038
流動資産	113,985	109,167	△ 4,818	受取手形及び売掛金	△ 3,547
固定資産	14,177	14,014	△ 163	商品及び製品	△ 9,784
負債合計	78,436	74,485	△ 3,951	短期借入金	△ 4,572
流動負債	75,623	71,847	△ 3,776		
固定負債	2,813	2,637	△ 176		
純資産合計	49,726	48,696	△ 1,030		

次に貸借対照表の概要をご説明します。

総資産は1,283億円となり、前期末に比べ49億円減少しました。

資産項目で見ますと、受取手形及び売掛金、ならびに商品及び製品が減少しております。

受取手形及び売掛金は35億円減少しておりますが、これはシステム事業で昨年度末の売掛債権の回収が進んだことによるものです。

商品及び製品は97億円の減少となりましたが、これは半導体の在庫が減少したことによるものです。

また負債項目につきましては、短期借入金が前期末に比べ45億円減少しました。

中期経営計画 事業戦略と重点施策

© 2019 MARUBUN CORPORATION

当社の事業施策の取組み状況についてご説明します。

事業施策の取組状況 1

■ 企業理念

**「人と技術とサービスで、お客様のために
新たな価値を創造し、社会発展に貢献する」**

中期の取り組み

新たな価値を創造するビジネスモデルの構築

成長市場に向けた事業開発の促進

持続可能な社会に貢献する取り組みの強化

当社グループの企業理念は、「人と技術とサービスで、お客様のために新たな価値を創造し、社会発展に貢献する」ことです。

この経営理念のもと、今年の5月に「新たな価値を創造するビジネスモデルの構築」、「成長市場に向けた事業開発の促進」、「持続可能な社会に貢献する取り組みの強化」を基本方針とする中期経営計画を発表しました。

「新たな価値を創造するビジネスモデルの構築」とは、差別化した付加価値の高い製品・サービスで新たなビジネスモデルの構築と事業ポートフォリオの進化を目指すものです。

「成長市場に向けた事業開発の促進」は、この数年間に投資や新規開発した事業を軌道に乗せ、早期の収益化を進めるものです。

また「持続可能な社会への貢献」とは、当社が取り扱う、先進の“尖った技術”で未来を豊かにしたいということです。当社の製品やソリューション、社員を通じて、より良い社会の実現に貢献することを目指すものです。

事業施策の取組状況 2

環境の変化に対応し、事業基盤の構築・強化を推進



そのような中、当社は去る7月16日に、当社デバイス事業の主要仕入先であるテキサス・インスツルメンツ社との契約を、2020年9月末で終了することを発表いたしました。長年続いた同社とのビジネスの終了は非常に残念であります。業界を取り巻く環境の変化は一時的というより構造的なものと認識しており、環境に迅速に対応していくためには新しい発想・着想と大胆な実行力による事業変革が必要と考えました。

そうした考えもあり、10月31日付で発表しました通り、これを新たなトップに託すことといたしました。

新たな経営体制のもと、当社としましては、今後成長が期待される「5G」、「IoT」、「車載事業」、「ロボット」、「セキュリティ」などの分野で、当社ならではの高付加価値ソリューションを展開し、事業基盤の構築・強化を推進していきたいと考えております。

デバイス事業、システム事業それぞれのセグメントでの具体的な取組み状況をご紹介します。

デバイス事業の取り組み

既存ラインカードの深耕

- 当社シェアの向上と、新規商流の獲得
→ Cypress社、ABLIC社などで顧客基盤拡大
- 品揃えを強化・補完する新たな仕入先の開発
→ Autotalks社、GOWIN Semiconductor社など

成長市場での事業拡大

■ 新規事業の立ち上げを加速

ロボティクス



Aeolus Robotics社

小型電源



FINsix社

3Dカーボン
ナノテクノロジー



Nanoramic社

海外ネットワークの充実

■ 自動車向けを中心に拡販

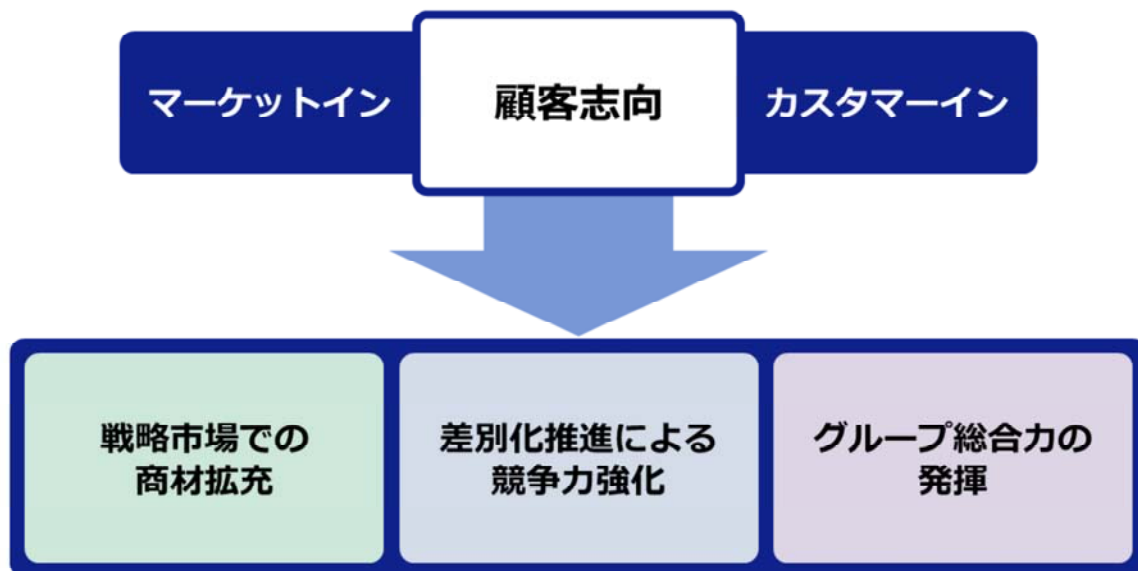
デバイス事業では、「①既存ラインカードの深耕」「②成長市場での事業拡大」「③海外ネットワークの充実」に取り組んでおりますが、今年度上期では特に「既存ラインカードの深耕」と「成長市場での事業拡大」で進展がありました。

「既存ラインカードの深耕」では、当社のソリューション提案力やグローバルサポート力を活かし、仕入先毎の当社シェアの向上と、新規商流の獲得に積極的に取り組んでおります。各仕入先からの期待も大きく、人材の再配置や拠点の拡充を進めており、Cypress社やABLIC社などのビジネスで顧客基盤が広がりました。

また既存ラインカードの品揃えを強化・補完する新たな仕入先の開発にも注力しております。6月には自動車のADASや自動運転向けで強みをもつAutotalks社と、9月には性能比コストの優れたFPGAメーカーのGOWIN Semiconductor社と代理店契約を締結しました。今後もラインカード拡充を積極的に進めるとともに、新たな取り組みとしてソフトウェアのビジネスも加え、事業ポートフォリオの進化につなげていく方針です。

「成長市場での事業拡大」ではここ数年投資してきた新規事業の立ち上げを加速しています。Aeolus Robotics社のAI搭載ロボットは、介護施設や病院などの介護支援・サービスをターゲットにプロモーション活動を展開しており、複数のプロジェクトが進行中です。またFINsix社の小型電源では、以前ご紹介したトヨタ自動機様との共同開発が順調に進んでおります。3DカーボンナノテクノロジーのNanoramic社については、製品としての提供に加え、カーボンナノ素材としての販売など様々な形態でのビジネスを検討しております。

システム事業の取り組み



システム事業の取組みをご説明します。

システム事業では、「マーケットインとカスタマーイン」の「顧客志向」をベースにして、「戦略市場での商材拡充」、「差別化推進による競争力強化」、「グループ総合力の発揮」に取り組んでおります。

システム事業の製品毎の上期の取組み及びトピックスについてご紹介します。

システム事業の分野別の取り組み

航空宇宙機器

- 人工衛星搭載用高信頼性部品や、地上局向けアンテナ設備などの採用促進
- 自動車向けのシミュレータなど新規商材の開発

情報通信機器

- 5G通信向けの測定器やシミュレータが好調
- 自動運転向けGPS関連製品のプロモーション強化



Septentrio社
高精度GPS受信機

産業機器

- 半導体や電子部品製造市場へ商材の拡充
- 組込コンピュータの受注促進



ADLINK社
組込み用コンピュータ

医用機器

- 将来を見据え人材リソースに積極投資
- サービスエンジニアの技術向上に注力

航空宇宙機器では、今後打ち上げが予定されているロケット・人工衛星プロジェクトに搭載される高信頼性部品や、人工衛星との通信を行う地上局向けアンテナ設備などの採用促進に注力しております。併せて、自動車向けのシミュレータなど新たな商材の開発を行い、安定成長のための基盤づくりを進めております。

情報通信機器では、2020年に始まる5G通信の本格商用サービスに向け、大手キャリアへの測定器やシミュレータのビジネスが好調で、下期以降も高い需要の継続が見込まれます。また自動運転向けのGPS関連製品についても、プロモーション活動を強化しております。

産業機器では、半導体や電子部品製造市場向けに商材の拡充や組込コンピュータの受注に注力しております。米中貿易摩擦による国内外での設備投資抑制の影響を受けてまいりましたが、最近になって一部回復の兆しも見えてきました。上期の遅れの挽回を目指し、拡販活動を積極推進しています。

医用機器では、北陸や甲信越、東京のエリアを中心に、画像診断装置などの販売・保守サービスを行っております。将来を見据え、人材リソースの拡充とサービスエンジニアの技術向上への投資を積極的に実施し、今後の成長につなげていく考えです。

2020年3月期 業績予想の概要

© 2019 MARUBUN CORPORATION

今年度の業績見通しについて説明します。

2020年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	19/3月期		20/3月期予想			前期比		期初予想比
	実績	構成比	期初予想	予想	構成比	増減額	増減率	増減額
売上高	326,694	100.0%	291,500	285,000	100.0%	△ 41,694	-12.8%	△ 6,500
デバイス事業	275,073	84.2%	236,000	233,300	81.9%	△ 41,773	-15.2%	△ 2,700
システム事業	51,621	15.8%	55,500	51,700	18.1%	79	0.2%	△ 3,800
売上総利益	22,767	7.0%	21,500	19,300	6.8%	△ 3,467	-15.2%	△ 2,200
販管費	17,719	5.4%	17,500	16,400	5.8%	△ 1,319	-7.4%	△ 1,100
営業利益	5,048	1.5%	4,000	2,900	1.0%	△ 2,148	-42.6%	△ 1,100
営業外収益	568	0.2%	600	1,300	0.5%	732	128.9%	700
営業外費用	2,596	0.8%	1,450	1,400	0.5%	△ 1,196	-46.1%	△ 50
経常利益	3,020	0.9%	3,150	2,800	1.0%	△ 220	-7.3%	△ 350
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,636	0.5%	1,750	1,350	0.5%	△ 286	-17.5%	△ 400

Point

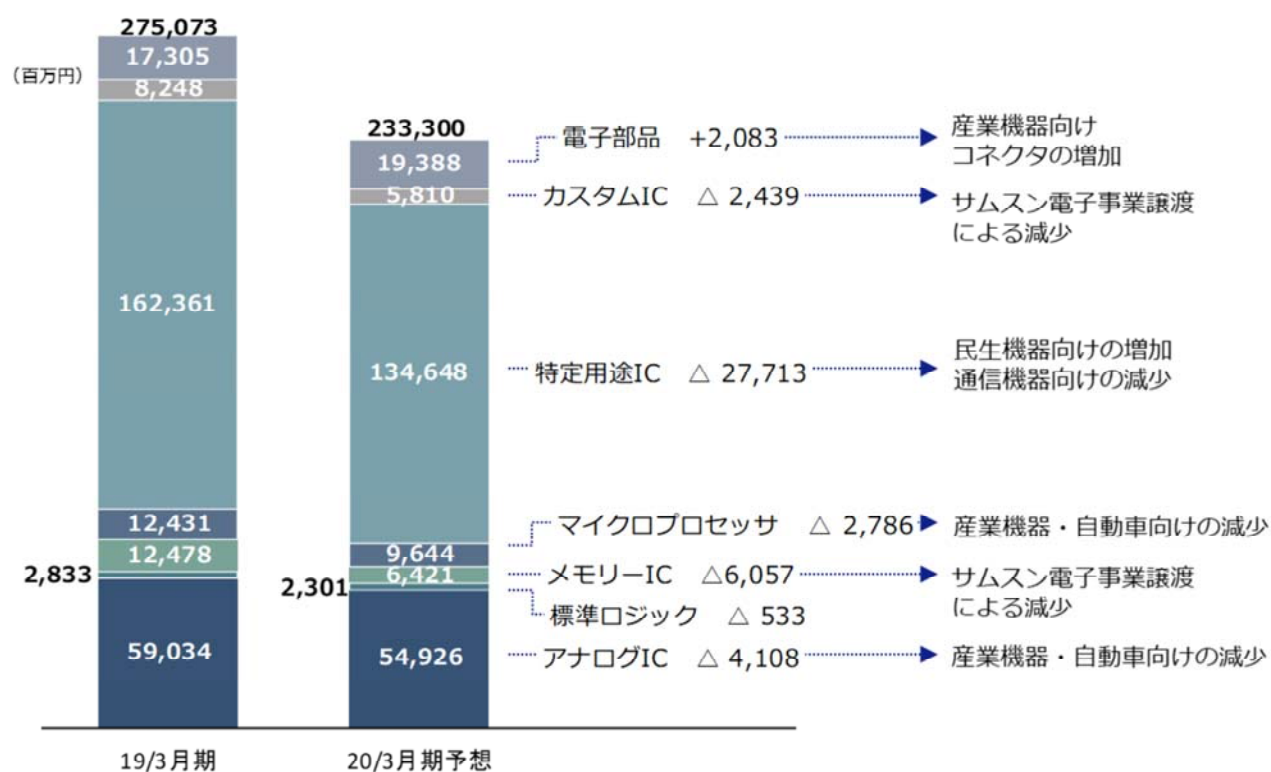
売上高	デバイス：サムスン電子事業譲渡による減少、通信機器・産業機器向け半導体の減少 システム：航空宇宙機器、産業機器の減少
売上総利益	売上減、上期為替変動による減益
営業利益	販管費の削減見込むが、売上総利益の減少により減益
経常利益	上期の為替差益を盛り込むが減益

通期の売上高は2,850億円となる見込みで、前期比では416億円、12.8%の減収となる見通しです。

これを期初予想との対比で見ますと、65億円の減収となり、セグメント別の内訳ではデバイス事業で27億円、システム事業で38億円の下振れとなっております。

利益面では経常利益は28億円となる見込みで、前期比では2億円の減少、期初予想比では3億5千万円の減少となる見通しです。

2020年3月期『デバイス事業』品目別売上高予想



MARUBUN CORPORATION

© 2019 MARUBUN CORPORATION 16

デバイス事業は前年度の2,750 億円から417億円、15.2%減の2,333 億円となる見込みです。

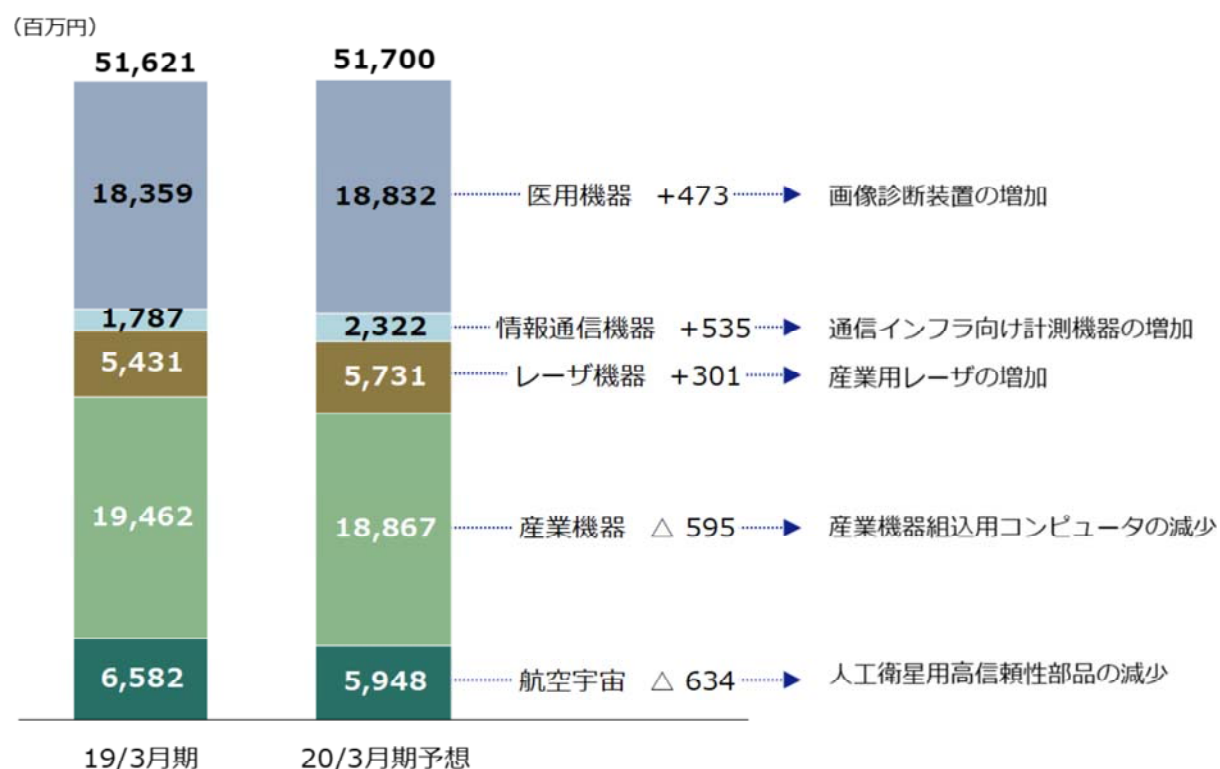
前年度と比較し増加するのは電子部品で、上期に引き続き産業機器向けコネクタ製品の増加を見込んでいます。

一方で、アナログICは、産業機器および自動車向けの減少を見込んでいます。

メモリーICとカスタムICの減少は、サムスン電子製品の事業譲渡によるものです。

特定用途ICは、商権の拡大により民生機器向けが増加しますが、通信機器向けが減少する見通しです。

2020年3月期『システム事業』品目別売上高予想



MARUBUN CORPORATION

© 2019 MARUBUN CORPORATION

17

システム事業については、前年度並みの517億円を見込んでおります。

前年度に比べ増加するのは、情報通信機器と医用機器です。

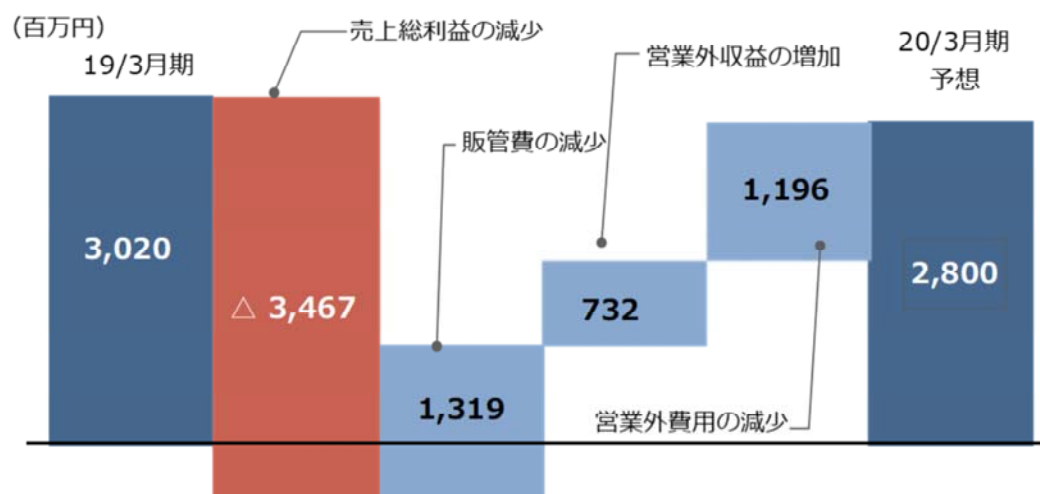
情報通信機器は、通信インフラ向けの計測器やシミュレータが上期に引き続き下期も好調が継続する見通しです。

医用機器も、好調だった上期の反動減で下期はやや減速を見込むものの、通期で増収を確保する見込です。

一方、航空宇宙機器は、人工衛星搭載用部品の減少を見込んでいます。

産業機器の減少は、主に産業機器組込用コンピュータの需要減によるものです。

経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	売上の減少、上期の円高進行の影響による減少 19/3月期：227億円(利益率7.0%) → 20/3月期予想：193億円(6.8%)
販管費	人件費、販売経費等の減少 19/3月期：177億円 → 20/3月期予想：164億円
営業外損益	為替差損益の改善 19/3月期：為替差損12億円 → 20/3月期予想：為替差益9億円

経常利益の増減要因について説明します。

売上総利益については、売上の減少や上期の円高進行の影響を折り込み34億円の減少を見込んでいます。

販管費は、人件費の減少や経費の節減により、13億円の減少となる見通しです。

営業外損益では、為替差損益の改善を見込んでおります。

この結果、経常利益は前期より2億円減少し28億円を予想しています。

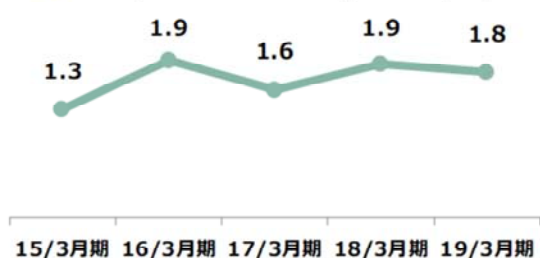
株主還元

株主還元

■ 配当方針

配当性向 連結30%以上

■ DOE(株主資本配当率)の推移(%)



■ 配当予想

	19/3月期	20/3月期 (予想)
1株当たり年間配当金(円)	30.00	30.00
中間配当	10.00	10.00
期末配当	20.00	20.00
配当性向(%)	47.9	58.1

株主還元についてですが、当社は、連結配当性向30%以上を目安とする配当方針を定めています
が、今年度は期初の計画通り、中間配当10円、期末配当20円、合わせて年間で30円を予定して
います。

これによる配当性向は、現時点での利益予想に基づきますと58%となる見通しです。

今後も、皆様のご支援とご理解を、よろしくお願いいたします。

参考情報

企業概況

会社概要

創 業	1844年（弘化元年）
設 立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長 水野象司
売 上 高	連結 3,266億円（2019年3月期） 単体 2,373億円（2019年3月期）
従業員数	連結 1,336名（2019年3月末） 単体 780名（2019年3月末）
株式上場	東京証券取引所 市場第一部（コード:7537）

事業領域

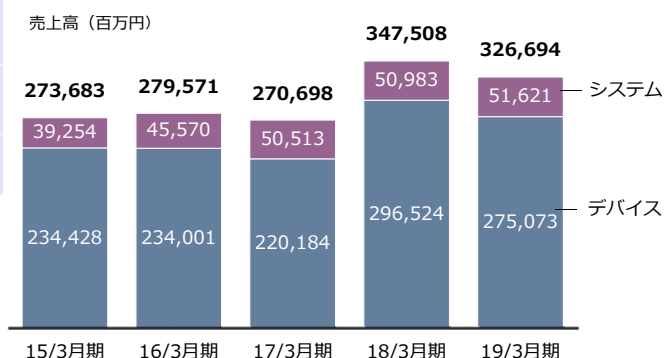
デバイス事業

- 半導体
- 電子部品

システム事業

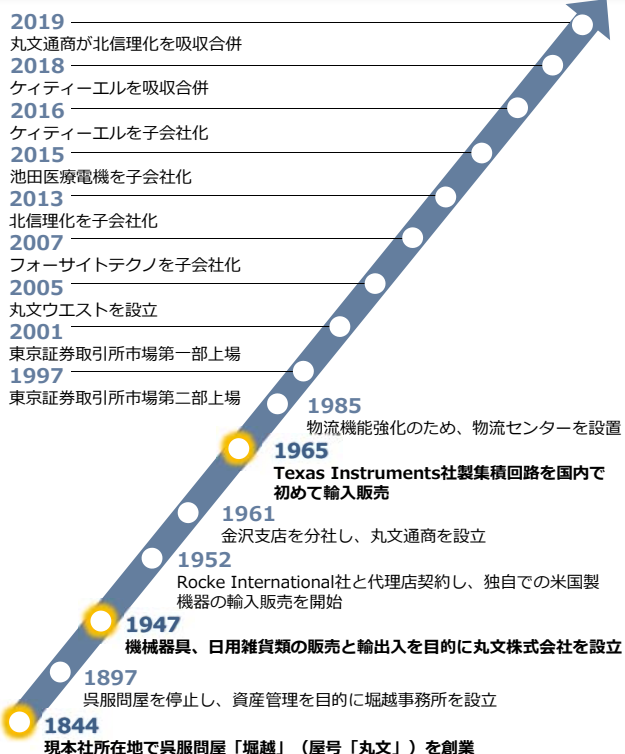
- 航空宇宙機器
- 産業機器
- レーザ機器
- 情報通信機器
- 医用機器

連結売上高の推移

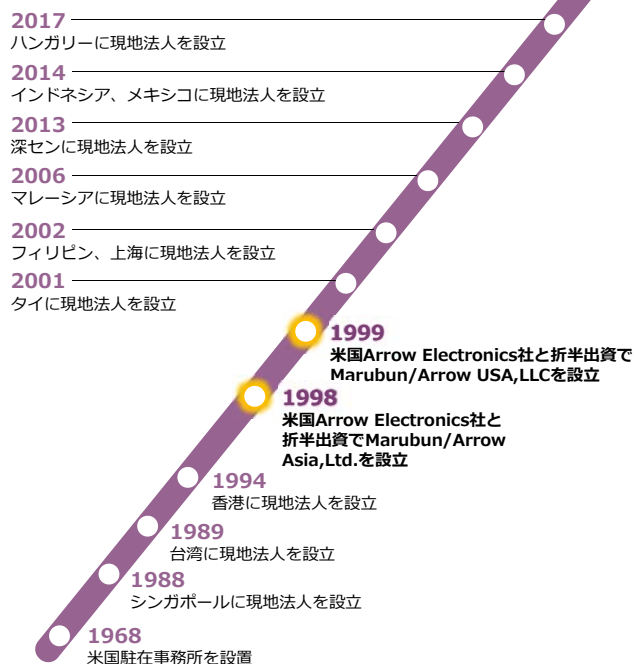


沿 革

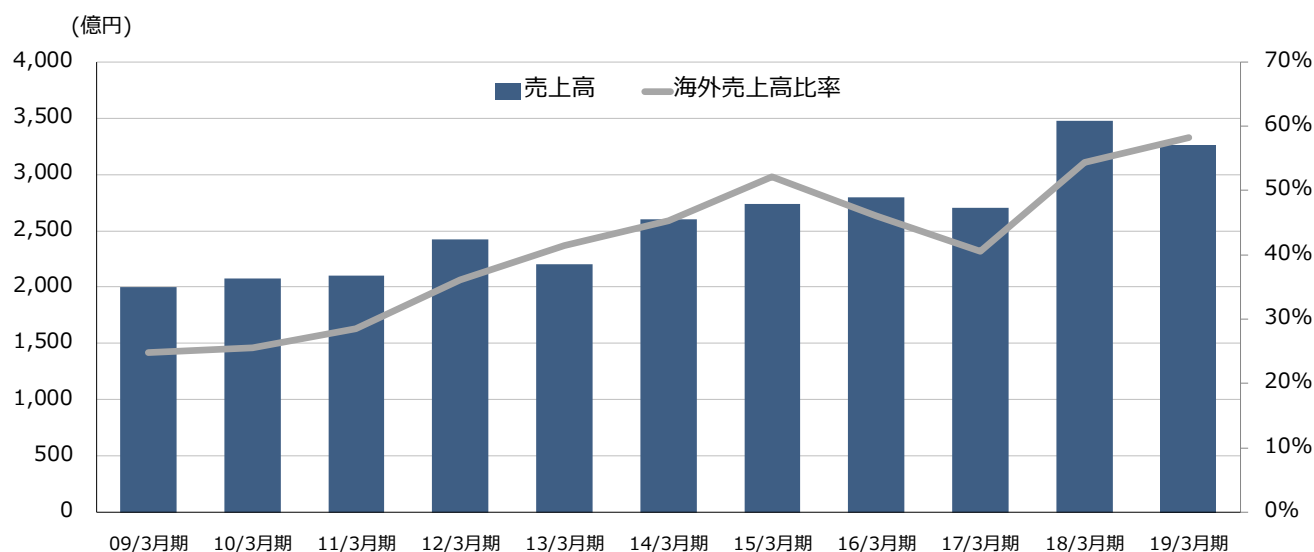
国 内



海 外



中長期トレンド（売上高・海外売上高比率）

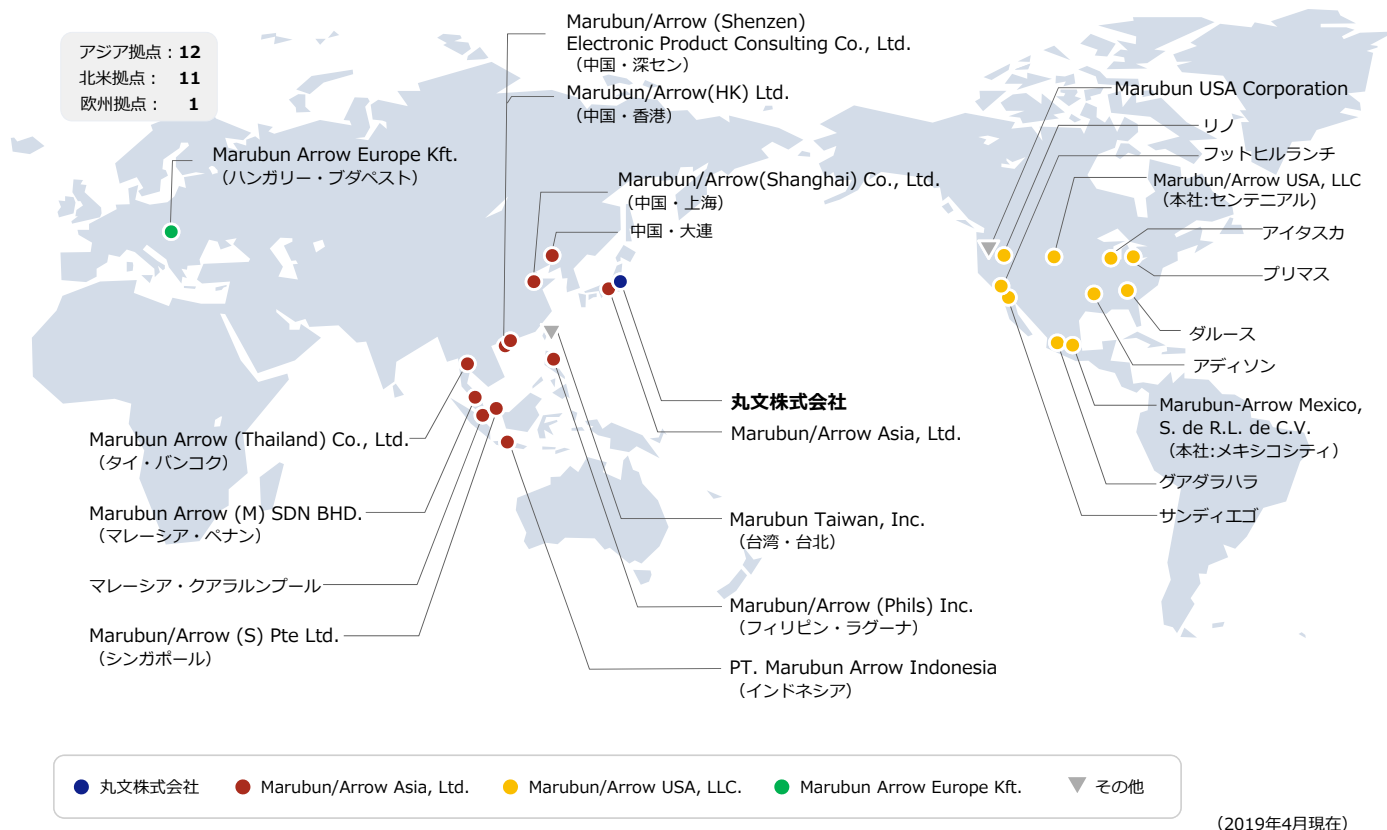


国内拠点



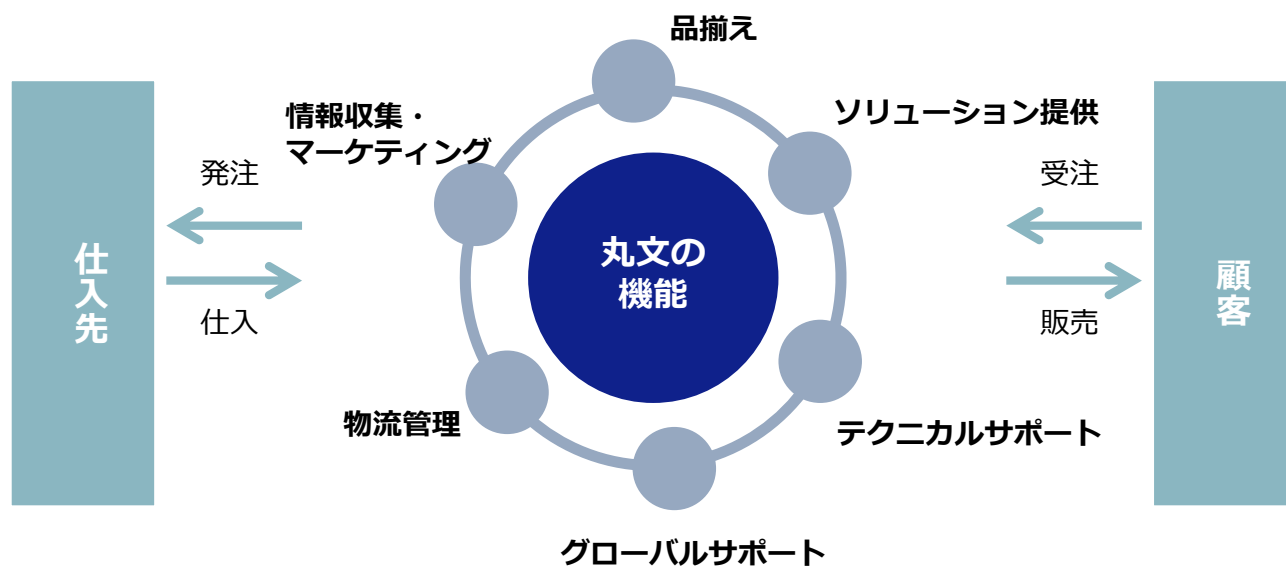
(2019年11月現在)

グローバルネットワーク



デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社(80ヶ国、349拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- 高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- 強固な顧客基盤



デバイス事業：グループ会社概要

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事 業 内 容
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50%	丸文アローシンガポール、 丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50%	
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50%	海外進出した日系企業への 半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50%	
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50%	

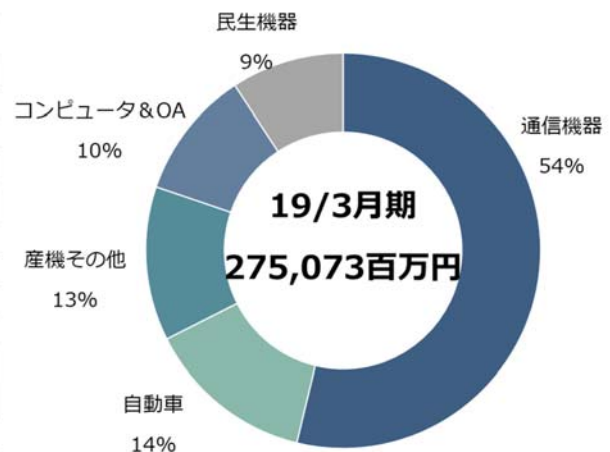
* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

デバイス事業：取扱製品（サプライヤ別）

		サプライヤ（アルファベット順）														その他
		旭化成 エレクトロニクス	エイブリック	Broadcom (米国)	Cypress (米国)	Eink (台湾)	FTNsix (米国)	IDT (米国)	Littlefuse (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Qorvo (米国)	SanDisk (WD) (米国)	セイコー エプソン	Texasinstruments (米国)	
半 導 体	アナログIC	●	●	●					●	●		●			●	●
	標準ロジックIC														●	
	メモリIC															
	DRAM															●
	フラッシュ												●			●
	その他メモリ		●					●					●			
	マイクロ プロセッサ													●	●	●
	DSP	●													●	●
	ASSP	●		●	●			●		●		●		●	●	●
	ディスプレイドライバ													●	●	
	DMD														●	
	LED															●
電 子 部 品	カスタムIC	●												●		●
	表示デバイス					●										●
	水晶デバイス		●					●						●		
	コネクタ・スイッチ・プリント基板										●					●
	モジュール製品						●									●

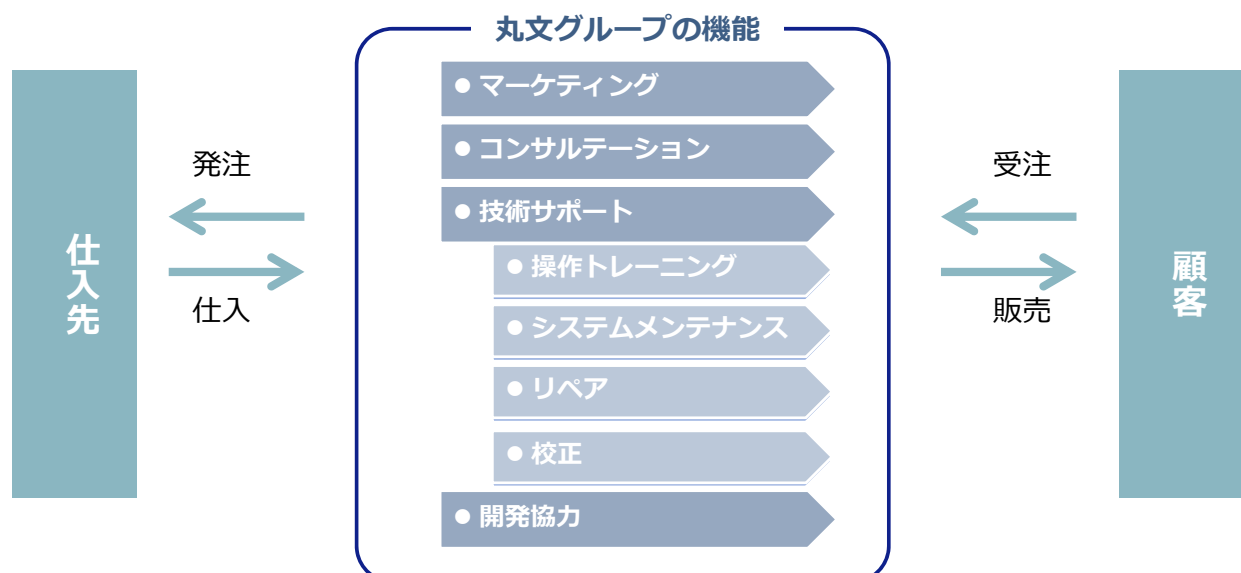
デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）

		通信機器	コンピュータ	産業機器	自動車	民生機器
半導体						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスクリート	●		●	●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●		●	●
	フラッシュ	●	●			●
マイクロプロセッサ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
	DSP	●		●	●	●
特定用途IC	ASSP	●			●	●
	ディスプレイドライバ	●	●		●	●
	DMD	●	●	●	●	●
	LED	●	●			●
カスタムIC		●	●		●	●
電子部品						
表示デバイス		●	●	●	●	●
水晶デバイス		●		●	●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板		●				●
モジュール製品			●		●	●



システム事業：特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート

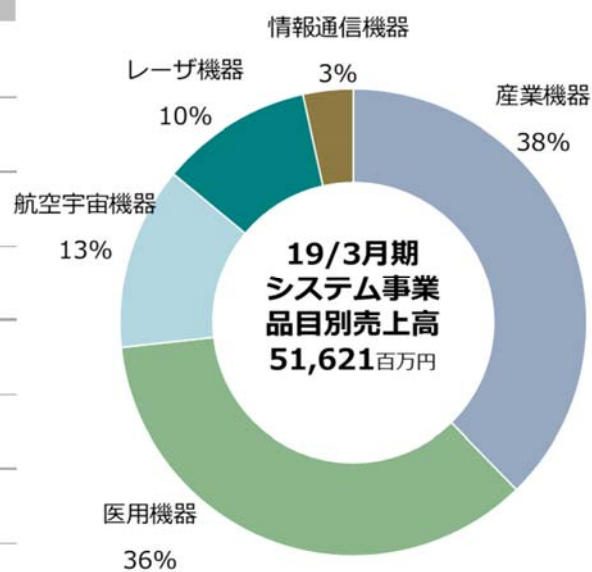


システム事業：グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事 業 内 容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100%	医用機器および試験計測機器の仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51%	システム製品の修理・メンテナンス、エンジニアリングサービス

システム事業：主要取扱い製品①

分野	主要取扱商品	主要仕入先
産業機器	検査装置 組立・検査装置	ユニハイトシステム、FEI、島津製作所、アキム、セイコーエプソン
	組込ソリューション 科学機器	ARTESYN、Aitech、ADLINK、LayTec、Riber
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	nLight、Laserline
	光機器	Excelitas Technologies、Luminus Devices、First Sensor
航空宇宙機器	宇宙関連機器 計測・センサ	Tele Communication Systems、GEセンシング、Meggit、Plascore
	航空関連機器 高周波電子機器	TEXTRON、L3HARRIS T&RF、CPI、Bird
情報通信機器	RF・光通信 測位タイミング	PCTEL、Finisar、EXFO、Microsemi、Calnex、Spirent



システム事業：主要取扱い製品②

航空宇宙機器



BEI Sensors社
高信頼性部品



CPI社
マイクロ波電子管

産業機器



島津製作所
ガスクロマトグラフ質量分析計



アキム
電子部品組立装置



FEI社
赤外線発熱解析装置



FUJI
大気圧プラズマ表面改質装置

システム事業：主要取扱い製品③

レーザ機器



nLIGHT社
組込み用半導体レーザー



Laserline社
レーザー加工装置

情報通信機器



Microsemi社
ネットワークタイムサーバー



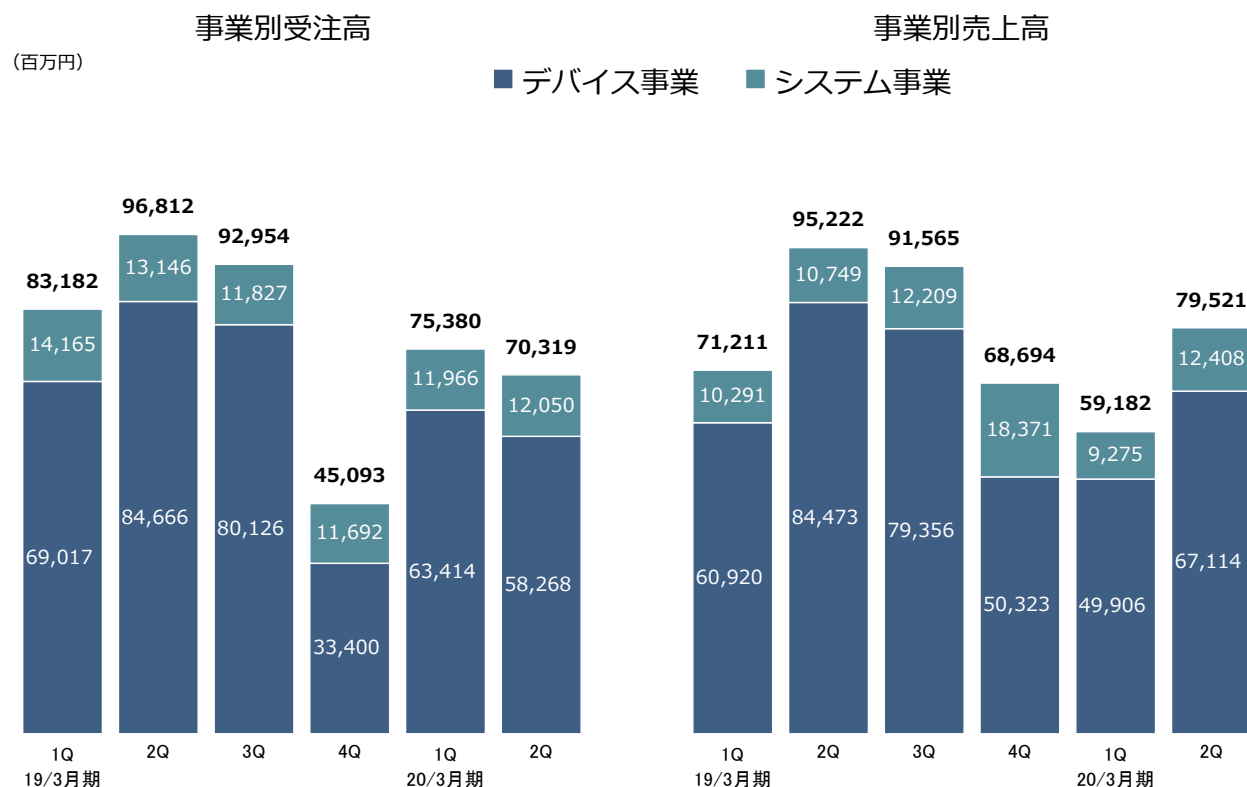
Spirent社
GNSSシミュレータ

医用機器

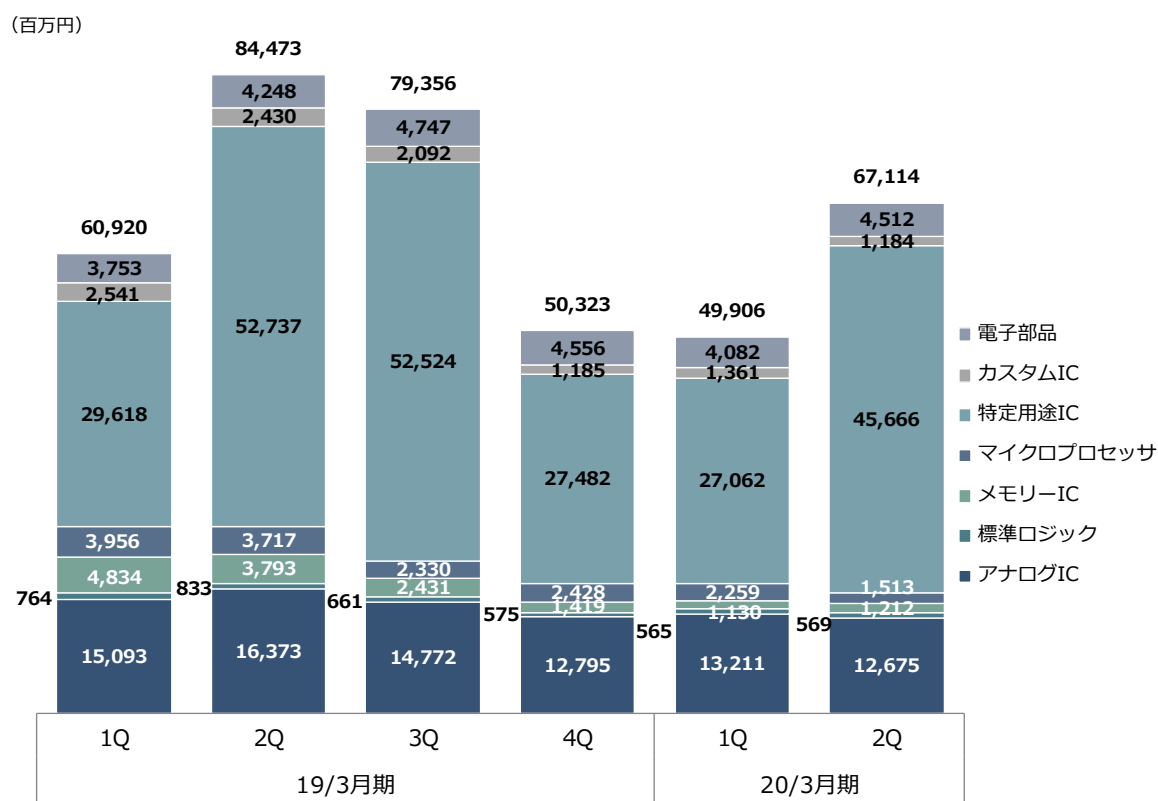


シーメンス・ジャパン社
X線CT装置

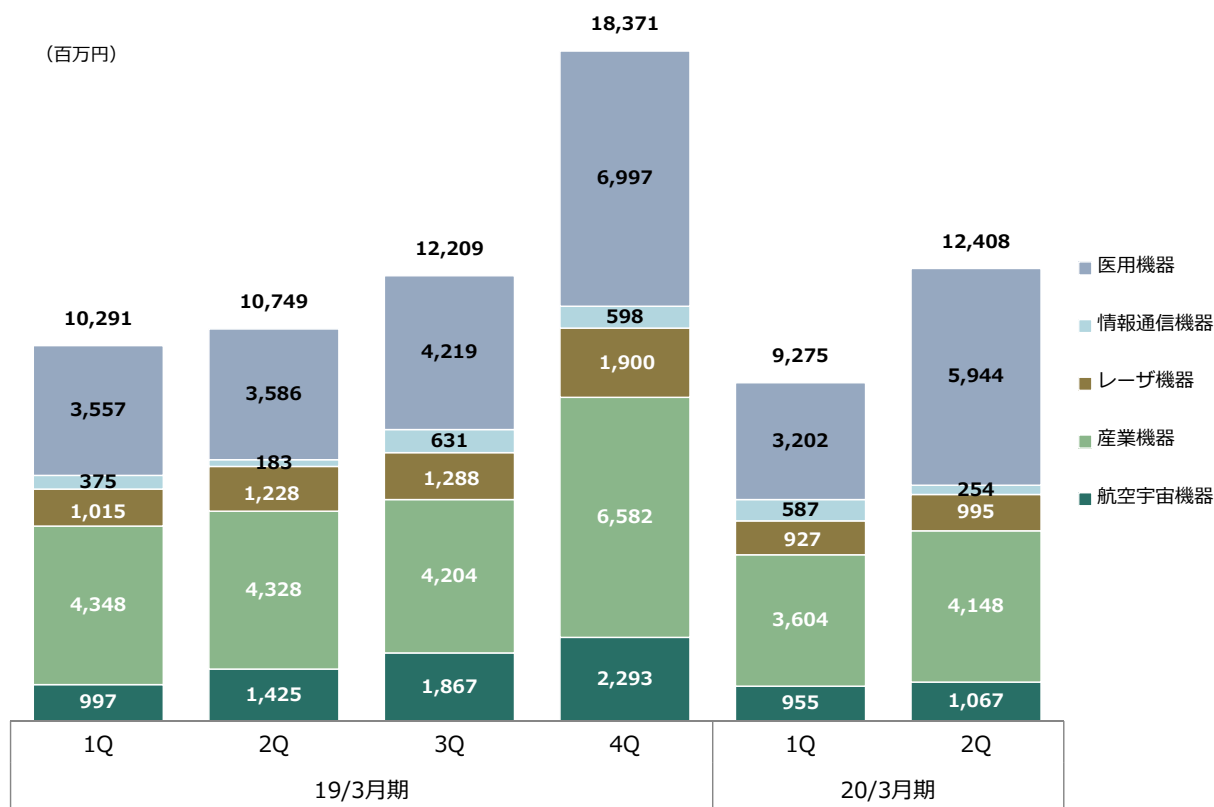
業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）



業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



本資料お取り扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp